

夫婦で清純・繊細な胡蝶蘭を栽培



桐谷 鏑木 義博さん、悦子さん ご夫妻

暖房の効いたハウスの中に一步入ると、出荷を待つ大輪の白い胡蝶蘭の鉢がたくさん並んでいました。

義博さんは大学を卒業後、サラリーマンとなりましたが、二年後に結婚を期に就農し、父親が始めた蘭の栽培に従事するようになりました。現在は千八百坪のハウスで、家族四人とパート五名で栽培を行っています。

鏑木さんの胡蝶蘭は全国ラン品評会で金賞を受賞するなど高い評価を受けています。現在は、千葉県洋らん生産者組合の組合長としても活躍しております。

奥様の悦子さんは非農家の家庭に生まれましたが、野菜作りにあこがれていたもので、農業をすることには抵抗はなかったそうです。

蘭の花はとても繊細で、栽培は年間を通じて、一定の温度に保たなければならぬため、温度管理がむずかしく、出荷までの期間が長いので、大変神経を使います。

現在は、ご自身の創意工夫により通年出荷できる体制を整えており、東京・大阪・東北方面の花屋さんを中心に契約出荷したり、直売も行っています。

蘭の花の需要は減少傾向にあります。また、外国からの輸入量の増加により、経営環境も厳しさを増していますが、鏑木さんご夫婦は、お客様に喜ばれる品質の高い蘭の花をいつでも届けられるように日々頑張っています。

取材の際にお二人が終始にこやかに笑顔で対応していただいたことが印象的でした。

(飯森・林・寺島)

新年のあいさつ

香取市農業委員会

会長 伊藤 寛



農家の皆さまにおかれましては、穏やかな新春を迎えられたことと、謹んでお慶びを申し上げます。

農業委員会等に関する法律の改正に伴い、平成28年4月1日より新体制で農業委員会活動をスタートいたしました。この3月末で任期3年が過ぎようとしております。

農業委員会の新たな使命である「農地利用の最適化」の達成に向けて、香取市農業委員会も農業委員・19名と農地利用最適化推進委員・24名が一体となって推進活動を実施し、目標達成に努めてまいりました。

特に、「人・農地プラン」の策定支援活動を農地利用の最適化、担い手対策の重要な施策と位置付け、積極的な活動を行ってまいりました。この活動が全国的にも一定の評価をいただいているところです。

しかし、農業情勢は、担い手の不足、農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加など、改善されない深刻な問題を抱え、農村環境に暗い影を落としております。アジア諸国やアメリカ、EU諸国との経済連携協定などの国際化への対応、主要先進国では最も低い食料自給率であることなど、より深化した困難な時代の中に入っております。

当農業委員会は、この4月から、2期目の新体制でスタートすることとなりますが、農業を取り巻く環境が大きく変化している現状を強く認識し、香取市農業の維持・発展に向けて委員会一同更なる活動を行ってまいりますので、より一層のご指導、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

秋の年次公開検証「秋のレビュー」へ出席



発言する伊藤会長

農業委員会では昨年11月に実施されました「香取のふるさとまつり」に参加し、「香取市農業振興支援金」へのご協力をお願いしました。ご来場されました多くの皆さま方から、合計で104,257円の温かいご支援をいただき、深く感謝申し上げます。昨年12月6日に皆さま方のご支援を農業委員会の役員より、宇井市長にお渡しいたしました。ご協力ありがとうございました。

農業振興支援募金のお礼

昨年11月13日に国の事業検証を行う内閣官房行政改革推進本部主催の年次公開検証「秋のレビュー」への出席を依頼され、参考人の立場で「香取市の農地の集積に関する取組み」についての発言をさせていただきました。

当日は、農林水産省の「農地の集積・集約化の促進」についてを検証するセッションに出席し、関係省庁の担当者や評価者で構成される会議の席で、伊藤会長は「人・農地プラン」の策定支援を基本とした農地集積等の取組みに関する香取市の活動内容に関して述べ、「集積を進めるうえで、地域での話し合いは重要。」と現場で実際に活動する我々農業委員会の声を政府の事業検証の場に届けました。

香取市 市民表彰の報告

昨年10月29日に、長年（12年以上）農業委員会活動を通じて、市政発展と農業行政の振興への貢献が認められ、2名が表彰されましたのでご報告いたします。



○農業委員 高木 重樹 (左)
○農地利用最適化推進委員 高木 彌 (右)

農業委員会ではこのような活動も行っています！

農業委員会では、委員会活動の一環として、農業者等との意見交換会の開催の他、研修会やイベントへの参加など積極的に行っています。

千葉県女性農業委員 ブロック別会議の開催

農業委員 伊藤 はつ子



平成30年度第1回の研修会が、10月24日香取市役所において開催されました。
自己紹介の後、香取市の活動を紹介した「人・農地プランの話し合い」を進める農地利用の最適化」のDVDを視聴しました。

研修会のテーマを「女性だからできる委員会活動について」として、意見交換会を行いました。他市町の委員さんから「女性だからと区別しなくてもよいのではないか」、「女性だから特別なことをするのはなく、農地を守るという同じ目的を持って活動できることが重要なのではないか。」そして、「女性にしか出来ないことがあるのではないか。」などの様々な意見が出て、大変有意義な意見交換の場となりました。

その他に、この研修会が新制度に移行して初めての開催ということで、開催の経緯や、耕作放棄地の問題、農地中間管理機構の活用、人・農地プランについて、多くの質問があり、千葉県農業会議・山本事務局長さんより質問に対する説明をいただきました。
予定時間をオーバーするほど活発な研修会となりました。
来年度も継続して開催の予定です。

栗源のふるさといもまつりに 参加しました

農業委員 寺島 美幸

11月18日快晴のもと、「栗源のふるさといもまつり」が開催され、農業委員会の担当する「いも掘り体験広場」は多くの家族連れの皆さんの歓声に包まれました。
いも苗植え、除草、つる刈りと地元の農業委員OBの協力で、いも掘り体験のイベントは今年で19回目を迎えました。
毎年楽しみにしていたらいている常連の方も大勢いて、開場の1時間前から長蛇の列ができるほどの盛況ぶりでした。

いも畑の中をハイハイする赤ちゃん、「たくさん採れたよ」と満面の笑みの女の子、「また来年も来るよ」とこやかに手を振る高齢の男性。
盛況の中いも掘り体験が終了し、きれいになった畑を見ながら、心地良い達成感を味わった1日でした。

農業委員会では、11月3日の山田ふれあいまつり、11月25日のふるさとフェスタさわら2018にも参加し、ジャンボ力ボチャの重量当てクイズなどを行い、多くの方々にご参加いただきました。ありがとうございました。



農業者等との意見交換会

農業委員 内山 勝己

昨年12月5日に「農業者等との意見交換会」を開催しました。当日は千葉県農業会議、香取農業事務所、JA佐原、JAかとり、中間管理機構、市農政課の関係団体の方々及び地域担い手の農事組合法人3組織の代表の方々に出席いただきました。

農業会議・山本事務局長から「千葉県下の農地利用の最適化の活動状況」や県、市の担当者からも事業等の説明をいただき、出席された法人の代表者からも現状の経営状況や今後の経営計画について報告がなされました。

農地利用の最適化、特に地域の担い手確保は解決していかなければならない緊急の課題です。関係団体と担い手農家が一同に会して意見交換の場を持つことは、今後重要な意味があるものと思います。



農地の売買・転用等の申請受付期間並びに総会予定表 <2019年1月~2019年6月>

年 月	受付期間 (土日祝日は除く)	総会開催日
2019年1月受付分	1月21日(月)~25日(金)	2月 6日(水)
2019年2月受付分	2月21日(木)~25日(月)	3月 6日(水)
2019年3月受付分	3月13日(水)~15日(金)	3月26日(火)
2019年4月受付分	4月16日(火)~19日(金)	5月 8日(水)
2019年5月受付分	5月16日(木)~20日(月)	6月 6日(木)
2019年6月受付分	6月17日(月)~20日(木)	7月 5日(金)

※3月受付分に関しましては、委員の任期満了に伴い、現委員の任期中に総会を開催いたします。従いまして、受付期間及び総会の開催日が早くなっております。
また、2019年4月受付分から申請受付期間が5日早まりますので、ご注意願います。
詳しくは、農業委員会事務局までお問い合わせください。

農業者年金に加入して 安心して豊かな老後を！

- あなたの老後生活への備えは充分ですか？
- 年金は家族一人ひとりについて準備することが大切です。
- 老後の備えは国民年金プラス**農業者年金**が基本です。

農業者年金に加入すれば			～農業者年金の支給額の試算～			
加入年齢	納付期間	保険料 納付総額	年金額(年額)		平均余命までの受給総額	
			男性	女性	男性	女性
20 歳	40 年	960万円	77 万円	65 万円	1,645万円	1,742万円
30 歳	30 年	720万円	51 万円	43 万円	1,092万円	1,156万円
40 歳	20 年	480万円	30 万円	25 万円	646万円	684万円
50 歳	10 年	240万円	13 万円	11 万円	288万円	305万円

※月額2万円で加入し、受給総額は65歳から平均余命を考慮した試算となっております。

※終身年金です。



多くの関係の皆さまに
厚くお礼申し上げます。
(栗林)

本号で現編集委員会での
「農業委員会だより」の発
行は最後となりますので、
編集委員を紹介します。
(左記写真)

新年あけましておめで
とうございます。
今回は、花卉栽培の若
い農業者夫婦を特集しま
した。
当市の「人・農地プラ
ン策定支援の取組み」が
全国的にも注目され、昨
年11月に内閣官房行政改
革推進本部主催の年次公
開検証「秋のレビュー」
に出席し、参考人として
意見を述べました。(2面
参照)

**編
集
後
記**